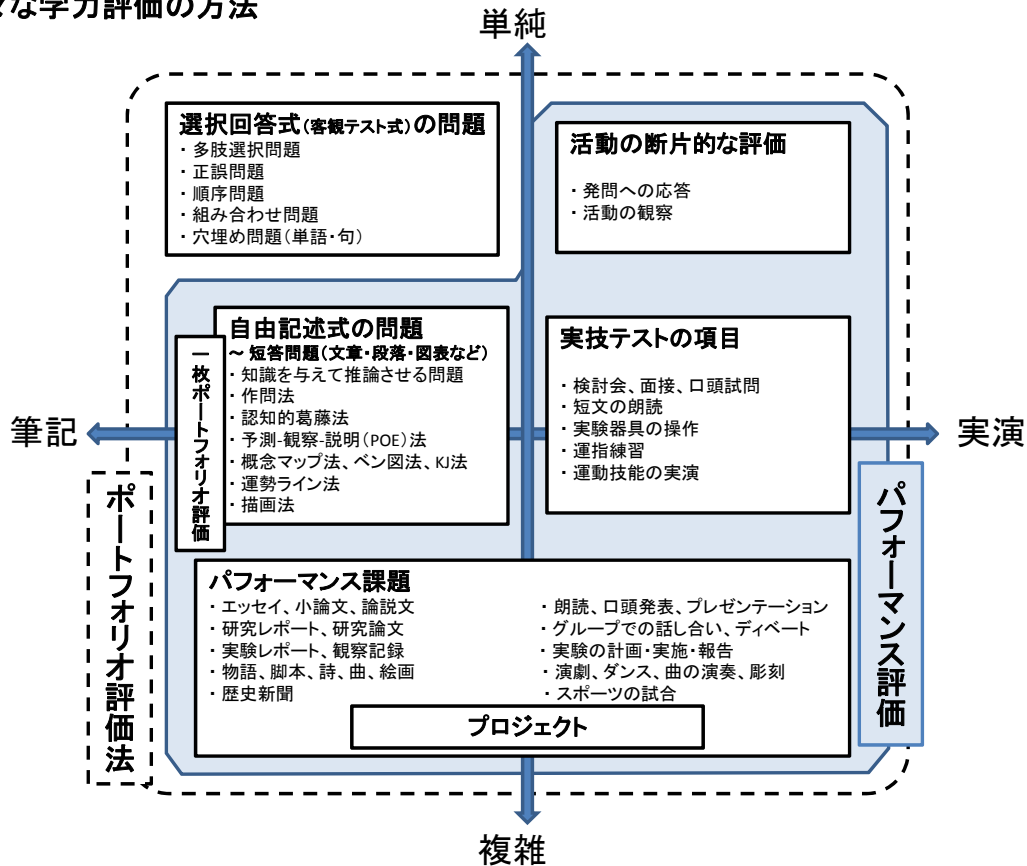


資料1. 評価方法

①様々な学力評価の方法



(西岡加名恵「パフォーマンス課題の作り方と活かし方」西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価 中学校——パフォーマンス課題とルーブリックの提案』学事出版、2009年、p.9)

②「知の深さ」と評価方法の対応関係 (西岡加名恵)

レベル		
1	事実的知識・個別的スキルを再生する <ul style="list-style-type: none"> 事実的知識：理論に基づいているような、明白で受容された事実（宣言的知識）。転移しない。 個別的スキル：単純で個別的な手続き的知識。反復練習などで身につく。限られた範囲でしか転移しない。 	筆記テスト 実技テスト
2	概念・プロセス（二つ以上の手順）を把握・適用する <ul style="list-style-type: none"> 概念：単語や短い語句で述べられた抽象的な知的構成概念（宣言的知識）。トピックや文脈を超えて、転移可能。 プロセス：意図された結果を達成するためのスキルの組み合わせ。学問の中で（時には学問を越えて）転移可能。 	
3	原理や一般化についての理解と方略的思考を総合して用いつつ、課題に取り組む <ul style="list-style-type: none"> 原理や一般化：概念・プロセス・事実・スキルなどの諸要素を構造的に関連づけ、整理したもの。完全な文の形で記述される。 方略的思考：推論したり、計画や手順の系列を開発したりする際に行われる思考 	パフォーマンス課題
4	様々な原理や一般化についての理解を、高度な方略的思考を用いつつ総合して、長期的なプロジェクトに取り組む	

※主に次の文献を参考にして、作成した。McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004. p.65. 石井英真「高次の学力の質を捉える枠組み——N.L.ウェブの『知の深さ』を中心に」田中耕治編著『活用』を促進する評価と授業の探究』科学研究費補助金 基盤研究(C) (研究課題番号 22530817, 代表: 田中耕治) 研究成果最終報告書、2013年、pp.14-22)